

# ドイツ・ノーヴァー留学記

平成20年卒 山田真一郎



**山田でございます。2013年  
5月から、ドイツのハノーファー  
医科大学に留学しております。  
半年が経ちましたので、近況  
のご報告をさせて  
いただきます！！**

# ニーダーザクセン州・ハノーファー



北ドイツの主要都市のひとつであり、ニーダーザクセン州の州都。人口は50万人。もとは漁村であったが、商工業が盛んになり、現在は多彩な教育機関・大学を持つ行政の中心地となっています。

**サッカー日本代表・酒井選手**(ゴリの方)が所属するHannover96の本拠地です！

気候:真夏でも20℃台前半で過ごしやすいが、冬は氷点下2-3℃まで下がる…。天気が良いのは夏だけで、あとの季節は雨が非常に多いです。

# ハノーファー医科大学(MHH)



中央駅から都市電車で15分ほどの  
のどかな場所にあります。  
私は総合・移植外科と生化学教室  
で勉強しています。

## 総合・移植外科

内分泌、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、移植、privateの6部門から  
なり、医者の数は30人程。外科だけのICUもあり、手術数も多いです。  
去年の移植件数は肝臓100例・腎臓200例とのこと。

## 生化学教室

糖尿病関連の研究を主に行っています。教授のSigard Lenzen先生は、  
夏に徳島に来られていました。

# 臨床（移植チーム）



手洗いも日本とは違います。

向かって左からRichter先生、私、Kespohl先生

# Nicolas Richter先生



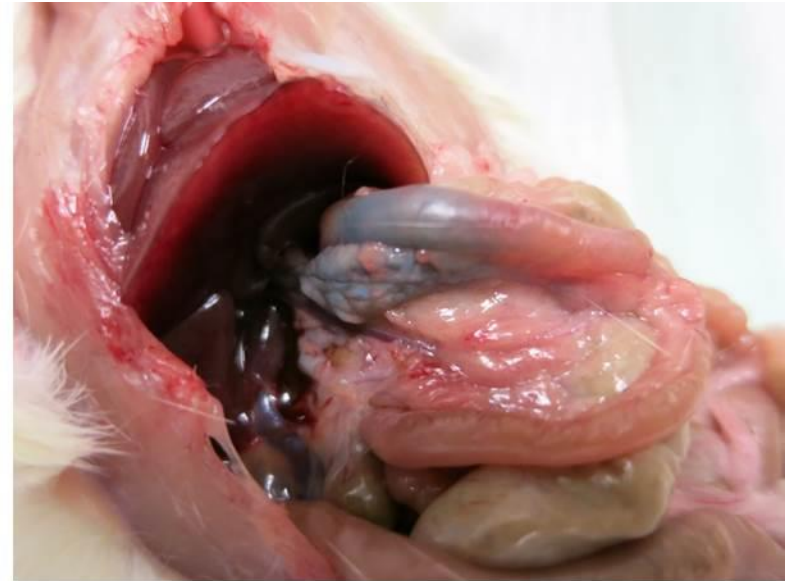
**徳島にも来ていただいた先生。この方がいなかったら私の留学生活は惨憺たるものになっていたでしょう。47歳、3人の子供がいます。優しく、紳士的で、偉大な移植外科医です。**

# 脳死患者の臓器摘出



臓器摘出は左の車に乗って他の病院へ向かいます。手術より、車に乗っている時間のほうが長い…。日本ではできない経験をさせていただいています。

# ラットを使った実験(生化学教室)



**ラットの腸間膜動脈から、ヒトインスリン発現ウイルスベクターを注射する実験。解剖が良く分からず、はじめは腹腔動脈に投与してしまっていました(右上)。正しく投与すると左下のように腸管全体に行きわたります。**



# 生化学教室のメンバーたち



若いメンバーが多く、みんなお酒とダンスが大好きです。  
いつも誘ってもらって感謝。

# 食生活



Schweinshaxe (フタの骨付き肉)



leberkase (ミートローフ)



schnitzel (トンカツ)

肉おいしいです。  
毎日が謝肉祭!!

# ビール



ビールがおいしいということ。一緒に飲む友達が少ないのが悔やまれます。

# 楽しい休日



**ベルリンの壁**



**サッカー観戦は欠かせません。**



**ミュンヘンのビアホール・ホフブロイハウス**



**昼間から飲んでも怒られません。**

## 最後に

こちらでの生活にもようやく慣れてきて、充実した毎日を送っています。ちょっとだけ寂しいですが、日本ではできないような貴重な経験をたくさん積むことができ、自分の人生でかけがえのない時間になることと思います。このような機会を与えてくださった島田教授をはじめ、医局員の先生方、いつも無理なお願いをする秘書さんや実験助手のみなさんに、心からお礼申し上げます。一つ上の男になって帰れるよう、残り半年も頑張ります。